

# 平成24年度 第65回全日本9人制バレーボール実業団男子選手権大会 戦評

期 日：平成24年7月29日（日）

会 場：湿原の風アリーナ釧路

## 【準決勝】

$$\frac{\text{中部徳洲会病院}}{\text{(沖縄県)}} \quad 2 \quad \begin{pmatrix} 21 & - & 15 \\ & & \\ & & \end{pmatrix} \quad 0 \quad \frac{\text{日本精工}}{\text{(神奈川県)}}$$

(主審) 榎谷 昌彦 (兵庫県) (副審) 笠原 隆博 (静岡県)

第5シードで3年ぶり2度目の優勝を目指す日本精工と、前年度覇者中部徳洲会病院との対戦は、総合力で勝る中部徳洲会病院がサーブで5下地選手がセット当たり2～4点、他1・11・17が各1点とポイントを取り有利に試合を進め、スパイクでは17岡部選手がセット当たり4～5点を決める大活躍をし、準決勝を制した。

(戦評) 松田 一夫 (北海道)

## 【準決勝】

$$\frac{\text{住友電工}}{\text{(大阪府)}} \quad 2 \quad \begin{pmatrix} 21 & - & 11 \\ & & \\ & & \end{pmatrix} \quad 0 \quad \frac{\text{JFE西日本}}{\text{(広島県)}}$$

(主審) 川崎 啓介 (山梨県) (副審) 山崎 公寛 (茨城県)

第1セットは、住友電工24桜井選手の中央からの切れのあるスパイクや8青木(俊)選手のブロックなどで序盤をリード。その後も着実に得点を重ね、3藤井選手のレフトスパイクなどで粘るJFE西日本を振り切り、住友電工が先取。続く第2セットは、序盤JFE西日本3藤井選手、住友電工9加藤選手のレフト攻撃の応酬などで、一進一退の攻防となったが、中盤以降地力に勝る住友電工が、3青木(忠)選手のライトからの鋭い攻撃などで少しずつ点差を拡げ、第2セットも連取して勝利を飾った。

(戦評) 大平 雅仁 (北海道)

## 【決勝】

$$\frac{\text{中部徳洲会病院}}{\text{(沖縄県)}} \quad 2 \quad \begin{pmatrix} 21 & - & 13 \\ & & \\ & & \end{pmatrix} \quad 0 \quad \frac{\text{住友電工}}{\text{(大阪府)}}$$

(主審) 嶋貴 泰全 (北海道) (副審) 佐藤 克久 (北海道)

2年連続同じ対戦となった決勝、住友電工対中部徳洲会病院。第1セット序盤から、両チームともセンター攻撃を中心に一進一退の攻防を展開するが、中部徳洲会病院17岡部選手のサービスエースからリズムをつかみ、そのまま一方的にゲームを進め第1セットを先取する。

第2セット目も序盤は、中部徳洲会病院のコンビバレーが冴えてリードを拡げたが、住友電工も粘り強いプレーで得点を重ね一進一退の攻防を展開し、決勝戦にふさわしい試合となり最後はジュースの連続となったが、攻守に勝る中部徳洲会病院が2年連続5回目の栄冠を手にした。

(戦評) 斎藤 雅幸 (北海道)